

令和5年度
研究紀要

小中学校におけるキャリア教育の在り方 に関する実践研究

〈盛岡市立米内中学校区〉

盛岡市立米内中学校

盛岡市立米内小学校

令和6年1月

盛岡市教育研究所

目 次

I	盛岡市キャリア教育の推進について	i
II	基本的な考え方	ii
III	委託研究の内容	iii
	表紙（校名・主題等）	v
	I 研究主題	1
	II 主題設定の理由	1
	III 研究のねらい	2
	IV 研究の内容と方法	2
	V 研究計画	2
	VI 研究の実際	3
	VII 研究の成果	11
	VIII 研究の課題	16
	IX おわりに	18
	・キャリア教育全体計画（米内小学校）	19
	・キャリア教育全体計画（米内中学校）	20

別冊 <研究資料>

米内中学校区キャリア教育 研究資料

I 盛岡市キャリア教育の推進について

1 社会的な要請から

今日、少子高齢化社会の到来、雇用形態の多様化・流動化等、産業構造や就業構造の変化など、社会全体を通じた構造的な問題が存在していることで、学校から社会・職業への移行が円滑に行われていない現状が見られている。また、働くことの関心・意欲・態度、目的意識、責任感、意思等の未熟さやコミュニケーション能力、対人関係能力、基本的マナー等、職業人としての基本的な能力の低下、職業意識、職業観の未熟さなど「社会的・職業的自立」に向けて様々な課題も指摘されている。

このような中で、一人一人が「生きる力」を身に付け、明確な目的意識をもって日々の学校生活に取り組みながら、主体的に自己の進路を選択・決定できる能力を高め、しっかりとした勤労観・職業観を形成し、激しい社会の変化の中で将来直面するであろう様々な課題に対応しつつ、社会人、職業人として、自立していくことができるようにするキャリア教育の推進が強く求められている。

2 市内小中学校の状況

各小中学校においてキャリア教育推進の取組が進められており、教師がその成果を強く実感していることがうかがえる。

- ・キャリア教育の全体計画を作成し、計画的な実践が行われている。
- ・職場体験、外部人材の活用により、体験活動の充実が図られてきている。
- ・勤労観、職業観の育成に役立った。
- ・児童生徒の勤労観、職業観、コミュニケーション能力の育成に役立った。

しかし、その一方で、キャリア教育を進めるに当たり、以下の点が課題となっている。

- ・中学校区内の小学校との連携や、学年間の系統性を意識した指導計画の作成
- ・教育活動全体をキャリア発達の視点から見直し、有機的なつながりをもった指導

- ・キャリア教育推進のための校内組織や体制づくり
- ・体験活動における日数、時数の確保や受入先の開拓

3 盛岡市キャリア教育推進の方向性

盛岡市教育委員会は、学校教育の目標を「子どもたち一人一人に、自立して社会で生きていくための基礎を育む学校教育」と定め、その達成に向けて、「基礎的生活習慣・学習習慣の確立」を土台とし、「確かな学力（知）」「豊かな心（徳）」「たくましい体（体）」をバランスよく育成する教育に取り組んでいる。

これらの3つの力を引き出し、伸ばす「学ぶ意欲・目的」を中核に据え、自己の生き方を考える「先人教育」と「キャリア教育」を中心にして、子どもたちに夢や目標をもたせる取組を推進している。また、市内小中学校への支援体制を整えるための基盤づくりを目的にして、平成19年度に学校、教育委員会及びその他の行政機関、企業等の関係機関・団体等で構成する「盛岡市キャリア教育推進協議会」を設立した。

また、平成21年度に「盛岡市キャリア教育推進プラン」を作成し、プランに掲げた施策の実施及び評価を行ってきた。

さらに、全市的なキャリア教育の充実をねらい、教育研究所研究員としてキャリア教育班4名を委嘱し、盛岡市の現状と推進協議会の協議を基に設定した重点（テーマ）に沿った実践を行うとともに、教育研究所発表会及び研究紀要の配布を通して全小中学校に紹介してきた。

キャリア教育の充実に向けての取組は、学校教育全体で行うことが大切であることを踏まえ、平成26年度から、小・中学校2～3校へ委託し、研究を進めている。

II 基本的な考え方

1 キャリア教育の定義

市内小中学校においては、キャリア教育の定義について「一人一人の社会的・職業的自

立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」(平成23年1月中教審答申)、「児童生徒が自己の在り方・生き方を考え、主体的に進路を選択し、社会人・職業人として自立するための能力を学校全体で計画的・組織的にはぐくむこと」(平成24年3月岩手県教育委員会)と押さえている。そこで、盛岡市キャリア教育推進協議会では、キャリア教育のねらいについては、「社会人・職業人としての自立」と捉え、そのための具体の能力を育むために、各校の特色を生かしたキャリア教育の実践を行っていくことを確認した。

2 社会人・職業人として自立するための具体的能力について

中央教育審議会は、「4領域8能力(文部科学省)」「人間力(内閣府)」「社会人基礎力(経済産業省)」「就職基礎能力(厚生労働省)」等の分析と再構築を行い、「基礎的・汎用的能力」とまとめた。

<中央教育審議会>

「4領域8能力(文部科学省)」「人間力(内閣府)」「社会人基礎力(経産省)」「就職基礎能力(厚労省)」等を分析し再構築

基礎的・汎用的能力	人間関係形成・社会形成能力 (他者に働きかける力・リーダーシップ・チームワーク・他者に働きかける力 等)
	自己理解・自己管理能力 (自己の役割の理解・自己の動機付け・主体的行動・忍耐力・前向きに考える力・等)
	課題対応能力 (計画立案・実行力・評価・改善・情報の理解・選択・処理 等)
	キャリアプランニング能力 (将来設計・働くことの意義や役割の理解・行動と改善・多様性の理解 等)

また、岩手県教育委員会では、社会人・職業人として自立するための能力として、岩手の課題を踏まえた育成すべき能力を次のように示している。

<いわてキャリア教育指針>

社会人・職業人としての自立を図るために必要なことについて検討

総合生活力	確かな学力 (学習意欲・態度、基礎学力、問題発見・解決能力、情報活用能力 など)
	豊かな心 (人間関係形成能力、チームワーク、リーダーシップ、規範意識、向上心 など)
	健やかな体 (基本的な生活習慣の確立、健康の増進、体力の向上、食育の増進 など)
人生設計力	社会を把握する能力 (現代社会の理解、国際社会の理解 など)
	勤労観・職業観 (働くことの意義と権利の理解、職業に関する知識・技能 など)
	将来設計力 (人生観、先見性、進路情報活用力、進路選択力、多様性の理解 など)

各校においては、中央教育審議会若しくは、岩手県教育委員会の示した具体の能力をもとに、全体計画や年間指導計画を作成し、学習を進めていること、また、「総合生活力」及び「人生設計力」を構成する要素は、「基礎的・汎用的能力」を包括する関係であることから、本実践においては、児童生徒に育てたい具体の能力については、各校の考え方に従って示している。

III 委託研究の内容と方法

1 研究の内容

本研究においては、盛岡市が抱えるキャリア教育推進の課題及びキャリア教育推進協議会の具体施策を基に、次の点を研究内容として進めていく。

- (1) キャリア教育全体計画の作成・改善
 - ア 小・中学校における各発達段階において身に付けるべき能力・態度の到達目標

を設定する。

イ 個々の活動がどのような能力・態度の育成を図ろうとするものであるかを明確にする。

(2) 教育課程への位置付けとその工夫

ア 各学校が、キャリア発達の支援という視点から教育課程の在り方を点検・改善していく。特に、各教科・領域におけるキャリア教育及び先人教育、復興教育、食育など他の教育内容との関連を図ることに留意する。

イ 児童生徒の発達段階を踏まえ、各校種が果たすべき役割や他校種における活動内容・方法・形態等を把握するなど、校種間の一貫性に留意する。

(3) 職場体験等の体験活動等の充実

ア 体験活動等が一過性の行事にならないよう事前・事後の指導など、周到な準備と計画の基に実施する。その際、職場体験と各教科、領域における指導との効果的な関連についても検討し、実践する。

(4) 多様な連携によるキャリア教育の推進

ア それぞれの学校の特色を生かし、異校種間、家庭・保護者、地域・社会、事業所・産業界等、連携を図りながらキャリア教育を推進することに留意する。

2 研究主題について

各学校におけるキャリア教育の計画や実践を第一にしながらも、前述した盛岡市の課題及び推進協議会の今年度の重点【次頁】も参考に2校で検討し、次のような研究主題を設定し、研究を行った。

自分に気づき未来を築く児童・生徒の育成
～9年間を見通したキャリア教育の実践を通して～

盛岡市の学校教育目標

「子どもたち一人一人に、自立して社会で生きていくための基礎を育む」

キャリア教育が求められる背景

- ◆若者を取り巻く雇用状況の変化
 - ・就労形態や雇用形態の多様化
- ◆若者の変化
 - ・コミュニケーション能力、勤労意欲の不足
 - ・基本的生活習慣の未確立
 - ・明確な進路意識や目的意識をもたない進学
 - ・社会人としてのマナー不足
 - ・早期離職率の高さ
- ◆学校教育法及び小学校・中学校及び高等学校学習指導要領

市内小中学校における現状

- キャリア教育の全体計画を作成し、計画的な実施が行われている。
- 職場体験、キャリア・アドバイザーの活用など、事業所等と連携を図り、体験活動の充実が図られてきている。
- キャリア教育に関する校内研修については、実施率が低く、研修の機会の確保に課題が見られる。
- 職場体験の実施について、感染症対策や受入れ企業等の確保に苦慮している学校が多い。

キャリア教育の評価(指標)

- 推進状況に係る評価を実施(※数値はR04)
- 1 指標「将来の夢や目標をもっている」児童生徒の割合
(肯定的な児童生徒：小83.1%、中74.6%)
 - 2 指標「中学校における職場体験(2日以上)を実施した学校の割合
(2日以上の学校：21.7%)
 - 3 指標「今住んでいる地域の行事に参加している」児童生徒の割合
(肯定的な児童生徒：小72.8%、中61.7%)

キャリア教育でめざす子どもの姿(幼・小)

- 自分のよさに気づく
- 友達と協力する
- 進んで挨拶をする
- やりたいことに進んで取り組む
- 仕事や役割を最後までやり通す
- 親の仕事や地域の特色を知る
- 家や学校で自分の役割を自覚する
- 将来の夢や希望をもつ
- 自分の考えを話す

発達段階に応じ将来の夢やあこがれをもたせる

学校

- 係活動
- 委員会活動
- 自然体験
- ボランティア活動
- 職場見学
- 福祉施設訪問
- 先人教育・復興教育との関連を図った体験活動

- 生徒会活動
- ボランティア活動
- 福祉施設訪問
- 職業調べ
- 職場体験活動
- 体験入学
- 先人教育・復興教育との関連を図った体験活動

キャリア教育でめざす子どもの姿(中・高)

- 自分らしさを生かす
- 他者を尊重する
- 時と場に応じた礼儀作法を身に付ける
- 個性や興味・関心等に基づいて進路を選択する
- 進路実現を目指して自己の課題を解決する
- 生き方や進路にかかわる情報を集める
- 勤労の意義や尊さ、苦勞を知る
- 様々な職業の社会的な役割を理解する
- 将来を設計し進路計画を立てる
- 獲得した技能等を相手に伝える

キャリア教育推進協議会の目的

関係機関が連携し、学校、企業、保護者、行政等の共通理解と協力の下で、小・中・高の発達段階に応じたキャリア教育の推進を図る。

推進方策

- 1 小・中・高等学校段階における組織的・系統的なキャリア教育の推進
- 2 教員の資質・能力の向上
- 3 企業等の協力を促す環境整備
- 4 学校、産業界、関係行政機関等の連携強化及び基盤整備
- 5 キャリア教育に対する社会全体の理解の促進

具体施策

(今年度の重点施策)

推進方策1・2

- ・「キャリア・パスポート」の活用を踏まえた、9年間を見通した組織的・系統的なキャリア教育を推進する。
- ・キャリア教育に関わる研修機会を提供し、各学校における推進体制を充実させる。

推進方策3・4

- 「職場体験受入先・キャリアアドバイザーリスト」の登録職種・事業所数の拡充を図り、オンライン学習を含めた学校のニーズに対応できる情報の提供を進める。

推進方策5

- 関係機関との連携を図りながら、地域・保護者の理解促進をめざす。

- 地区運動会やお祭り
- 伝統芸能伝承活動
- 地域一斉清掃活動
- 職業人による出前講座
- 自然体験活動の支援
- 職場体験の受入れ など

三者の連携

- 早寝・早起き・朝ごはん
- あいさつ
- 手伝い
- 家族のコミュニケーション
- 家庭学習の充実
- 地域行事への参加

家庭

地域・企業

盛岡市立米内中学校・米内小学校

【研究主題】

自分に気づき未来を築く児童・生徒の育成

— 9年間を見通したキャリア教育の実践を通して —

I 研究主題

自分に気づき未来を築く児童・生徒の育成
— 9年間を見通したキャリア教育の実践を通して —

II 主題設定の理由

1 教育の今日的課題から

学習指導要領の改訂に伴い、小、中、高等学校の特別活動には、学級活動の内容の(3)に「一人一人のキャリア形成と自己実現」が位置付けられた。これまで、中学校では職場体験学習がキャリア教育の中核的活動として実施されてきたが、体験が体験で終わり、キャリア教育の目標を達成するまでに至らなかった。

さらに、コロナ禍により対外行事が大幅に削減される中、小学校での校外学習や中学校の職場体験学習も制限され、実施することが叶わない3年間が続いた。

とどまることなく変化する社会の中で、子どもたちが希望をもって、自立的に自分の未来を切り拓いて生きていくためには、変化を恐れず、変化に対応していく力と態度を育てることを今一度、見つめなおし、「今、ここで」どのような教育実践をすればよいのかを米内小学校・米内中学校の2校で検討した、

日常の教育活動を通して、学ぶ面白さや学びへの挑戦の意味を子どもたちに体得させつつ、未知の知識や体験に関心を持ち、仲間と協力して学ぶことの楽しさを通して、未経験の体験に挑戦する勇気とその価値を体得することで、生涯にわたって学び続ける意欲を維持する基盤をつくることを確認し、本主題を設定した。

2 児童・生徒の実態

米内中学校区は、米内小学校、米内中学校の2校からなる。盛岡の中央部から北東へ8kmの郊外、桜台、上米内に位置しており、藪川中学校・外山小学校の閉校・合併により東西約30km、南北約10kmの自然豊かで広大な地域が学区となっている。

平成23年度からは米内中学校で全校生徒100名を下回り令和になってからは60名前後の小規模校となった。

豊かな自然に生まれ心豊かな純朴な児童・生徒が多い中、幼少時代から同じメンバーで生活を共にすることが多く、児童生徒一人ひとりのラベリングが進み評価が固定化される傾向がある。

それにともない、全体的に自己肯定感が低い傾向が見られ、現中学3年生では、令和3年度新入生学調質問紙「自分にはよいところがある」肯定的回答52%（県75%）。令和4年度県学調質問紙「同上」では、肯定的回答72%（県72%）と中学校生活の中で、向上が見られたが生徒一人ひとりの「自己肯定感を高めること」が研究実践の中の大きな柱であると考えた。

また、学力面でも低迷しており、現中学校3年生の学力は、令和3年度新入生学調 国語39.2%（県46.9%）数学46.1%（県55.2%）。令和4年度県学調 国語62.0%（県65.

9%) 数学41.1%(県45.2%)。令和5年度全国学調 国語64.0%(県69.0%) 数学44.0%(県46.0%)である。

さらに、令和4年度県学調質問紙の回答によると平日の1日当たりの学習時間は1時間未満68%、平日のテレビ等の視聴時間3時間以上50%、平日の携帯・スマホの利用時間3時間以上50%と学びに向かう姿勢も著しく落ち込んでいることがわかった。

このことは米内小学校においても同様で、学校生活の中で、自分自身をメタ認知し、自分の短所や長所に気づき、自尊感情を高める中で、しっかりとした人生の目標や夢を着実に一步一步実現していく児童生徒の育成を目指し、この主題を設定した。

Ⅲ 研究のねらい

小中連携により以下のことに重点的に取り組む。

- 1 9年間を見通して、キャリア形成に必要な資質・能力を学年段階に応じて、明確に設定する。
- 2 特別活動を要としつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ることにより、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるようにする。

Ⅳ 研究の内容と方法

1 研究内容

- (1) キャリア教育の全体計画表の作成
- (2) 児童生徒の実態における米内中学校区のキャリア教育の重点の明確化
- (3) 児童生徒のキャリア発達を促す教科指導及び体験活動の充実。

(4) 職場体験学習の再開と事前指導・事後指導の方法

(5) 「キャリアガイダンス・カウンセリング」の充実

2 研究方法

- (1) 文献研究
- (2) 分析研究 全国学調・県学調の結果および、「アンケート未来」(キャリア教育全体計画に基づく児童生徒アンケート) など
- (3) 授業実践研究

V 研究計画

【1年次】

- ・組織の設置と会議
- ・キャリア教育全体計画表の作成および重点の明確化
- ・実態把握(キャリア教育全体計画に基づく児童生徒アンケートの作成・分析と全国学調、県学調の結果分析等)
- ・年間指導計画の作成
- ・授業実践および小中による実践交流
- ・キャリア教育の評価
- ・文献研究

【2年次】

- ・評価を受けて、キャリア教育全体計画表の見直し・重点の見直し
- ・実態把握(同上)
- ・コロナ禍収束による職場体験学習の再開(4年ぶり)の計画・実施(2日間)
- ・年間指導計画の見直し・修正
- ・授業実践および小中による実践交流
- ・指定研究のまとめ
- ・キャリア教育の評価
- ・文献研究

VI 研究の実際

1 米内中学校区キャリア教育全体計画

— 別紙参照 — PP. 19～20

2 キャリア教育アンケート

— 別紙参照 — 研究資料 PP. 1～3

3 研究の重点と取組

(1) 【1年次】

ア 身に付けさせたい資質・能力（キャリア全体計画表）

小学校・中学校において、学校が使命としてもつ全体的な教育目標を踏まえつつ、それぞれの児童・生徒や地域の実態に応じて学校ごとにキャリア教育を俯瞰し、目指す資質・能力を重点化・重点化した。

広い視点で、研究の柱建てを行うことにより、小学校・中学校それぞれの良さを生かしつつキャリア教育全体計画の作成に当たることができた。

小規模校にあって、学年ごとに日常生活や学習の特徴、人間関係形成の様子、集団活動における活動、勤労生産的な活動に対する意識など、大きな違いがある中で、小学校・中学校それぞれのキャリア教育の目標を設定し、そこに一貫する流れを作り上げることができた。

イ 実態把握（小中一貫したキャリアアンケート）

全体計画表に基づき、小中で同じ視点で、それぞれの資質・能力について実態を把握するための「アンケート」も作成し、実施した。

改めて、9年間のキャリア教育の中で目指すべき資質・能力の全体の傾向を把握することができた。

ウ キャリアアンケートからの短期アクションプラン

実践研究1年目に、キャリアアンケートを行うことによって明らかになってきた課題について、小中それぞれアクションプランを立て、資質・能力の向上に努めた。

(ア) 米内中学校

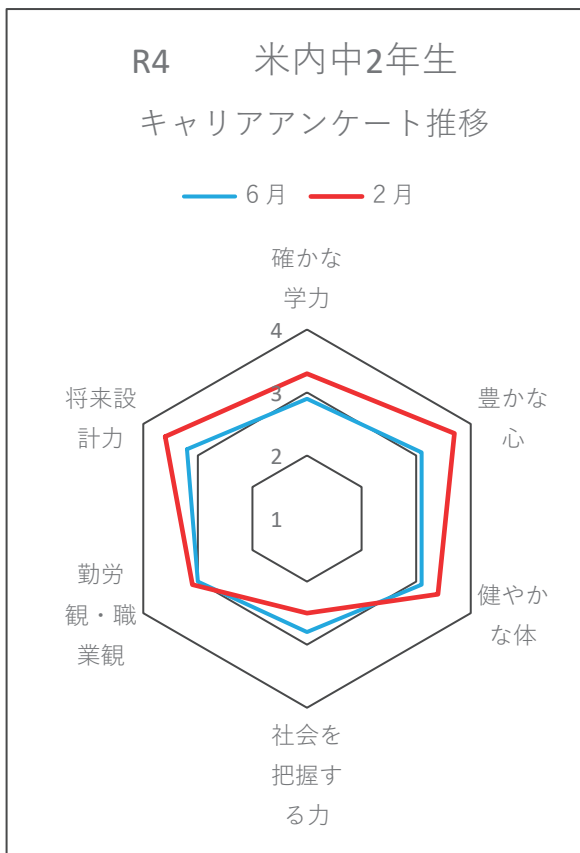
米内中学校2年生(現3年生)では、「確かな学力」「社会を把握する力」の項目に対する自己評価が低く、「個に着目し、個を引き上げつつ、全教科および特別活動・道徳科・総合的な学習の時間において、全体の引き上げを図った。

・主な例

国語	課題作文、長文読解からの四十字以上で答える問題の無答をなくするための指導を徹底した。
数学	研究授業を行い、授業研究会の中で「実社会に生きて働く力」の考え方を共有した。
特活	職場体験学習がコロナ禍で実施できなかったため、「盛岡広域振興局土木部の建設業体験学習」を行った。
総合	SDGsに関わる個人のテーマを設定し、問題意識を持ち、その課題解決のためのレポートを作成した。

この結果、2年生(現3年生)は、確かな学力、豊かな心、将来設計力の項目で大きな伸びを見せた。粘り強い学級経営および教科経営の成果が現われ、学習や進路に目を向けるようにな

ってきたと思われる。そして最上級生へと上がっていく覚悟のようなものができつつあり、自分以外の人の良さを認められるようになってきた。



(イ) 米内小学校

① 年間指導計画の作成

〈重点の明確化〉

児童の実態の捉えから、身に付けさせたい資質・能力の重点を設定し、各学年の年間指導計画を作成した。これによって、年間の学年における活動がどのような資質・能力の形成を図ろうとするものなのかを明確に位置付けることができた。また、各教科、道徳科、総合的な学習の時間、特別活動がどのように関連付けられていくのか意識することができるようになった。

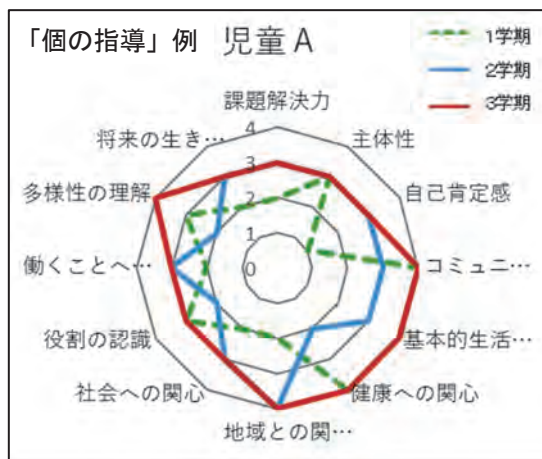
— 別紙「年間指導計画」参照 —
研究資料 PP. 4～6

〈重点〉

- ◇ 課題解決力
- ◇ 自己肯定感
- ◇ コミュニケーション力
- ◇ 基本的生活習慣

② 「個の指導」の位置付け

キャリアアンケートの結果から、全体だけでなく、個に着目した指導の必要性があると考え、年間指導計画の中に「個の指導」を位置付けた。これにより、より一層継続的な働きかけを意識的に行うことができるようになった。



— 別紙「個の指導」参照 —
研究資料 PP. 23～25

③ キャリア教育の視点を位置付けた授業研究〈実践内容〉

「学級活動」「生活科」「総合的な学習の時間」を中心とした授業研究を行い、授業の中にキャリア教育の視点をどう位置付けていけば良いのか、その在り方を探り、検討を重ねた。

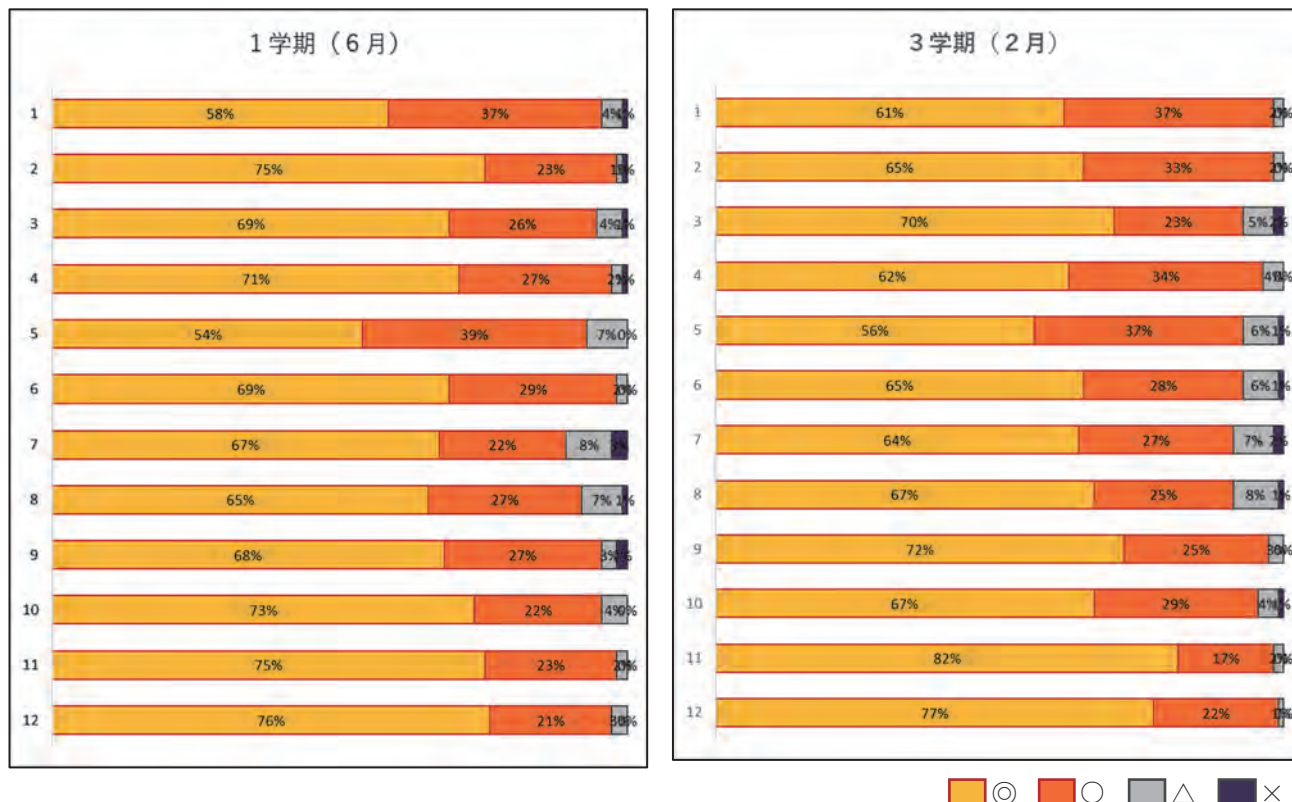
(実践内容)

1年	生活科 「あたらしい1ねんせいをしょうたいしよう」
2年	生活科 「みんなでつかうまちのしせつ」
3年	学級活動 「わくわく学級クラブをつくろう」
4年	学級活動 「見直そうゲームやYouTubeの時間」
5年	学級活動 「自分と友達のよいところを見つけよう」
6年	総合的な学習の時間 「先人から学ぶ 新渡戸稲造」
特別支援学級	自立活動 「お店を開こう～産直編～」

キャリアアンケートの結果から、項目1の「課題解決力」に関しては、◎よくしている（あてはまる）と回答した児童が58%から61%に増加しており、自分の力で課題に向かおうとする気持ちが少しずつ育ってきていることが分かる。

項目3の「自己肯定感」についても、◎と解答した児童が69%から70%にわずかに増えている。しかし、△と×を合わせた割合が5%から7%に増えていることから、一人ひとりの児童の様子を捉えた指導がさらに必要であると考えられる。

R4 米内小学校キャリア教育アンケート推移〈全校〉



- 1 課題解決力 2 主体性 3 自己肯定感 4 コミュニケーション 5 基本的な生活習慣 6 健康への関心
7 地域との関わり 8 社会への関心 9 役割の認識 10 働くことへの関心 11 多様性の理解 12 将来の生き方

(2) 【2年次】

○ 実態からの改善

小学校・中学校においてキャリアアンケートや全国学調等、また1年次の短期アクションプランにより、さらに明らかになった課題について、キャリアの全体計画表をもとに、それぞれの校種で目指す資質・能力について、授業実践の中で高めていくこととした。

(ア) 米内中学校

① 確かな学力育成プランに基づく授業改善

今年度の米内中学校の新入生学調の正答率は、国語53.0%（県54.0%）数学47.8%（県53.1%）と低く、中でも国語の話すこと・聞くことは52.4%（県65.1%）、数学の図形18.1%（県29.8%）と県比で-10ポイント以上の差がついている。

現在求められている資質・能力を伸ばし、学力を高めていくことが、キャリア教育にとっても喫緊の課題であり、重点である。

② 「学びに向かう修正力・調整力」

奈須正裕氏（上智大学教授・中央教育審議会初等中等教育分科会総則・評価特別部会委員）は、「非認知的能力＝『学びに向かう力、人間性等』が人生における成功を左右する…。」（光文書院 教育情報誌 T-Navi Edu <ティーナビ・エデュ> Vol.4（2019年6月発行「資質・能力を基盤とした学力論とは!？」より）と言う。

このことから新学習指導要領における資質・能力の3つの柱である「生きて働く『知識・技能』の習得」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」のうち、この「学びに向かう力・人間性等」はキャリア教育に直結していると考えられる。

すなわち、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組の中で、自らの学習を調整しようとすることは、多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力に直接結びついていくと考えるからである。

このことを「学びに向かう修正力・調整力」と校長が提唱し、「主体的に学習に取り組む態度」の評価を各教科で年間指導計画に組み入れ、常に念頭に置きつつ、全職員で共有して取り組んだ。

※「学びに向かう修正力・調整力」＝自分で課題を見付け、自ら学び、主体的に判断し、行動し、他から学びつつ修正し、調整しながらよりよく問題を解決する資質や能力

③ 勤労観・職業観の育成

令和元年末から今年度の5月までコロナ禍により、ある意味外部との接触を断たれてしまった中、実際に仕事をしている人と接し、自分自身も体験することで、働くことの意義や目的の理解、進んで働こうとする意欲や態度などを育むための「職場体験学習」が、何よりも大切なことであると考え、2年生において、実施した。
(8月23日～24日)

「職業の意義についての基本的な理解・認識、自己を価値あるものとする自覚、夢や希望を実現しようとする意欲的な態度など、望ましい勤労観、職業観を育むまたとない機会である。」(文部科学省中学校職場体験ガイド 第1章 職場体験の基本的な考え方)

生徒が希望する職場は、ほとんどの職場が体験学習を受け入れ、生徒は、直接働く人と接し、実際的な知識や技術・技能に触れることを通して、学ぶことの意義や働くことの意義を深く理解していた。

また、全校では、NPO法人未来図書館によるみらいパスポートプロジェクトを開催し、社会人講師8名との交流を通して、「夢を持つことの大切さ」「自分の心の声を大切にすること」、「たくさんの人に会ってたくさんの方に挑戦すること」等の有益なメッセージを心に刻んだ生徒が多かった。

④ 時を守り、場を清め、礼を正す ～ 総合生活力の基盤 ～

「学びに向かう力、人間性等」を新学習指導要領の各教科の目標においては、おしなべて「主体的に……の態度を養う」と規定している。

米内中学校では、「学びに向かう力、人間性等」で養う資質・能力の「態度」を、教育課程全般において「習慣化」させ、生徒一人ひとりのキャリアの基盤となるようにと考え、「時を守り、場を清め、礼を正す」をキャッチフレーズとした。「遅刻をしない」「授業の始業時間を守る」「下校時刻の徹底」や、「清掃時間は時間いっぱい働く」「行事等の準備作業の時も常に後始末を徹底する」。また、「朝の挨拶や業間での挨拶をしっかり行う」「授業の始業の挨拶の徹底」など、生徒はもとより、職員も徹底して行っている。

ここから生徒会生活係会の取組として「さわやかあいさつさんキャンペーン」といった取り組みも生まれた。

(イ) 米内小学校

① 目指す児童像の再検討・明確化

研究主題に立ち返り、1年次の実践や、キャリアアンケート結果から、「目指す児童像」について再検討し、明確に位置付けた。

米内小学校 目指す児童像
〈低学年〉
自 自分の好きなことを見つけて、のびのびと活動する。
関 友達と力を合わせて生活する。
衆 身のまわりの事象への関心を高める。
〈中学年〉
自 自分のよさに気づき、自分らしさを発揮しながら活動する。
関 友達と協力して活動する中で関わりを深める。
衆 自分のやりたいことや良いと思うことに進んで取り組む。
〈高学年〉
自 自己のよさや個性を知り、目標に向かって自分を伸ばそうとする。
関 自分の役割や責任を果たし、役立つ喜びを体得する。
衆 社会と自己の関わりから、自分の夢や希望をふくらませる。
.....
自 自己肯定感（自分に気づく）
関 他との関わり
衆 将来の生き方（未来を築く）

② 授業及び体験活動の充実

キャリア教育で育成する資質・能力を位置付けた授業及び体験活動の充実を図った。1年次の反省をもとに、見直し、検討を重ねながら「学級活動」「生活科」「総合的な学習の時間」での授業実践

を行った。今年度は、小中合同の授業研究会を行い、互いの実践を交流することができた。

— 別紙「授業実践」参照 —
研究資料 PP. 8～22

また、特別支援学級では、自立活動として、単元「キッズ職人学び隊」に年間を通して取り組んでいる。児童の声を元に「米内のお寿司屋さんへ行こう」や「鍼灸師の学校の先生に会おう」等といった単元を設定し、実際に様々な体験をする中で、「社会への関心」や「働くことへの関心」への高まりが見られるようになってきている。

2学期には、「レザークラフト体験」を中学校の特別支援学級と交流しながら実施することができた。

工房の方から制作方法を学ぶ中で、児童・生徒同士の会話も弾み、中学校生活への関心を高めている姿が見られた。

③ 「個の指導」の位置付け

年間指導計画にある個への働きかけの視点をまとめると、次の10項目が挙げられる。

- ・児童の「課題」とともに、「良さ」をしっかりと見取る。
- ・日常生活全般での小さな努力を見逃さず褒める。
- ・困り感があれば、それに寄り添いながら対話を重ねる。
- ・児童の「好きなこと」や「得意なこと」に夢中になって取り組

む体験を通して、達成感を味わわせていく。

- ・たとうまくいかななくても、チャレンジする気持ちや姿勢を認め、褒める。
- ・苦手なことや時間が掛かることにも、励ましながら取り組むようにし、自信を抱かせていく。
- ・児童の「良さ」や「努力していること」を本人に伝え、自らの「良さ」に気付かせるとともに、周囲の友達や学級全体にも伝えていく。(教師だけでなく、友達から認められることが、大きな力となっている。)
- ・対話のスキルやコミュニケーションスキルを高めていくために、ペアやグループでの学習を位置付ける。
- ・人と関わることの楽しさを実感させ、関わりを通して、自らを見つめる視点を育てる。
- ・家庭と連携しながら、児童の「良さ」を伸ばしていく。

こういった働きかけを行う中で、児童の自己肯定感が少しずつ育まれてきていることが分かる。

—別紙「個の指導」参照—

研究資料 PP. 23～25

④ 家庭・地域との連携

家庭との連携は、児童の成長・発達を支え、自立を促す上で大変重要である。行事への参加だけでなく、「児童への手紙」「励ましの感想」「家庭における役割分担」等、様々な形で授業に関わり、児童の

学びを支える場を設けた。このことにより、児童の中に多くの気付きが生まれ、学びが深まるとともに、児童の自己肯定感の高まりが見られた。

また、地域との様々な連携を行い、地域で暮らす方々との出会いや関わりの中で、地域のよさを感じ取り、地域での活動の在り方を考える機会となった。

〈地域との関わり〉

- ・地域探検
- ・米内のよさを発見しよう
- ・公園のごみ問題を考えよう
- ・庄ヶ畑さんさ振興会の方から学ぼう「めざせ！さんさマスター」
- ・米内川水質調査
- ・キッズ職人学び隊 第1弾
 - 米内での漆栽培
 - 米内のお寿司屋さんへ行こう

地域の様々な人との関わりを経験する中で、コミュニケーション能力を育むと同時に、仕事をしている人と話すことで、仕事に必要な資質や能力等を知る大切な機会ともなっている



お母さんからの手紙を夢中で読む児童



米内川水質調査



庄ヶ畑さんさ振興会のみなさんから学ぶ



「レザークラフト体験」での小中交流

Ⅶ 研究の成果

1 9年間を見通した小中一貫したキャリア教育全体計画に基づいた「総合生活力」「人生設計力」の俯瞰および発達段階における年間指導計画の作成

米内小学校・米内中学校において、令和4年度の早い段階でキャリア教育全体計画を作成することができ、米内中学校区のキャリア教育において養うべき資質・能力を小中学校の全職員で把握し、授業実践を行った。

また、全体計画表に基づき、小中学校で一貫したアンケートを取り、キャリア教育における米内中学校区の児童生徒の実態を把握することができた。

さらに、全体計画表やアンケート結果から各教科等の年間指導計画を作成し、授業実践を行った。

2 小学校によるキャリア発達と中学校によるキャリア発達の違いが明確化

小学校・中学校それぞれの段階で養うべきキャリア教育の資質・能力の違いがあることを改めて認識し、中学校区の全職員で共通理解できた。

そのことにより、児童生徒に学校で学ぶことと社会との接続を意識させ、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育み、キャリア発達を促すキャリア教育の充実を図った。

これにより、米内中学校区における9年間を見通したキャリア教育の実践を確かなものとした。

3 自己肯定感の育成

～ 一人一人の役割と責務 ～

米内中学校令和5年度 全国学力検査生徒質問紙の結果では、「自分には、よいところがある」の肯定回答は77.3%（県79.1）と県にわずかに及ばなかったものの、経年で見ると、以下のように大きな伸びを見せている。

52.0（県75）	R3 新入生学調
72.0（県72）	R4 県学調
77.3（県79）	R5 全国学調

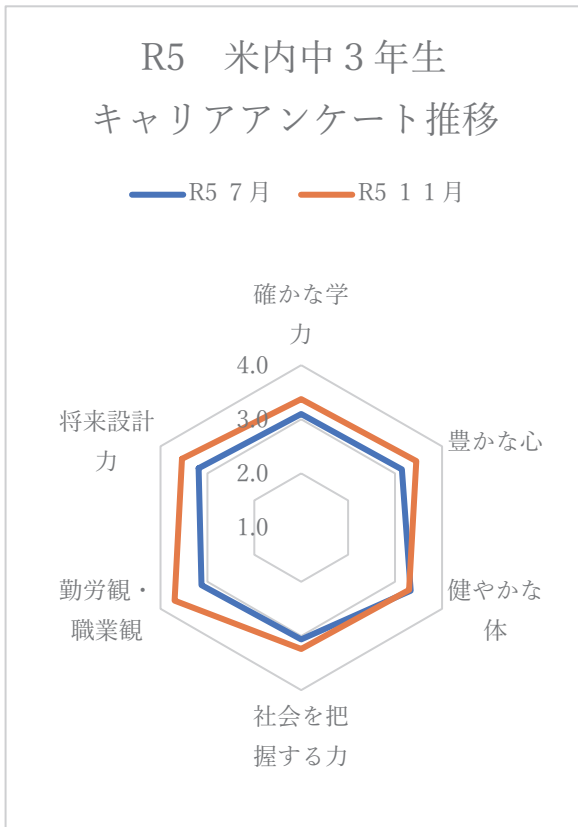
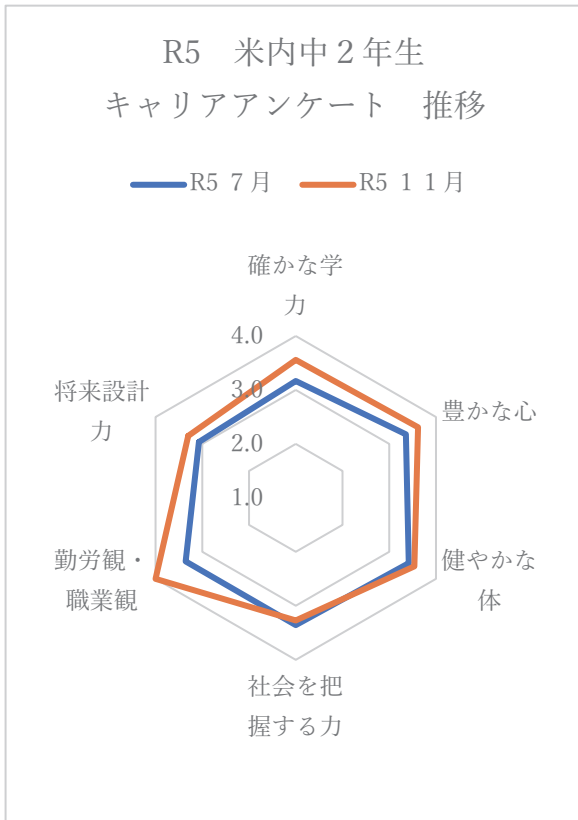
小規模校であるため、中学校の生活において、学年が上がるにつれ生徒一人ひとりの役割とその責務が増えること、加えて体育祭や文化祭、部活動といった諸行事等で、教師が意図的に自己肯定感の低い生徒を支援し、活躍させ、自信と達成感を持たせたことが、このような結果になった起因であると考えられる。

米内小学校においても、授業や体験活動の充実を図り、自己肯定感を育むためのプロセスを組み立てながら、その育成に取り組んできた。

「個の指導」を位置付けることで、まずは教師自身が子どもの「良さ」や「課題」を見つめ、様々なアプローチを試みることができた。児童によっては不安定な要素も見られるため、日々の見取りが欠かせない。また、年間を見通した支援が必要となってくる。今後も継続して、支援の在り方や有効な手立てを探っていく必要がある。

4 キャリアアンケートの結果

(1) 米内中学校



2年生では、職場体験学習を経験したことで、勤労観・職業観が3.1から4.0へ大きく伸びた。やはり学校を離れ、自ら選んだ施設・店舗に赴き、実際にそこで働いている人からレクチャーを受けることにより、学校では得られない情報や見方・考え方が得られることが大きいと思われる。

また、確かな学力育成プランに基づく授業改善が進みつつあり、授業で課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組む生徒が増えてきていることが、このアンケートからもわかる。

来年度も引き続き、職場体験学習は積極的に行っていきたい。

3年生においては、1学期の体育祭、2学期10月の文化祭活動を通して、全校のリーダーとして活躍してきたこと、そして諸行事を終え、いよいよ進路選択の時期を迎えたということもあり、自分に目を向ける中で、社会の現状を理解し、どのように働き、どのように生きていくかを真剣に考える時期となった。

また、勤労観・職業観も3.1から3.7と伸びを見せ、NPO法人未来図書館によるみらいパスポートプロジェクトで社会人講師との心を割った交流を経て、素直な気持ちで前向きに考え、自分を見つめなおしたこと、地道な進路指導の結果であると考えられる。

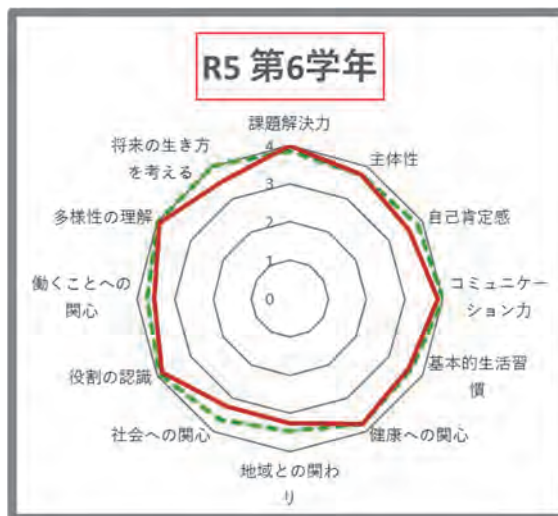
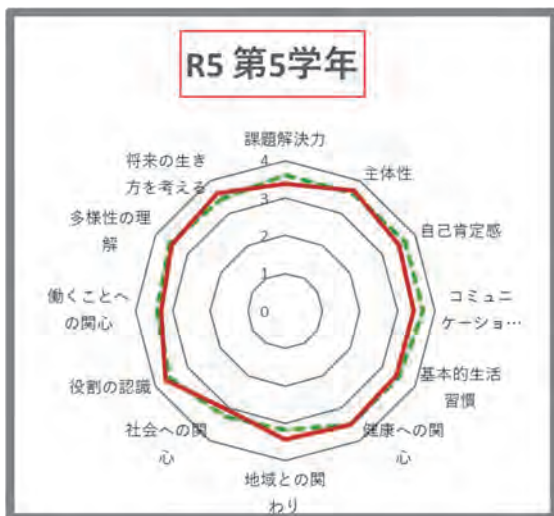
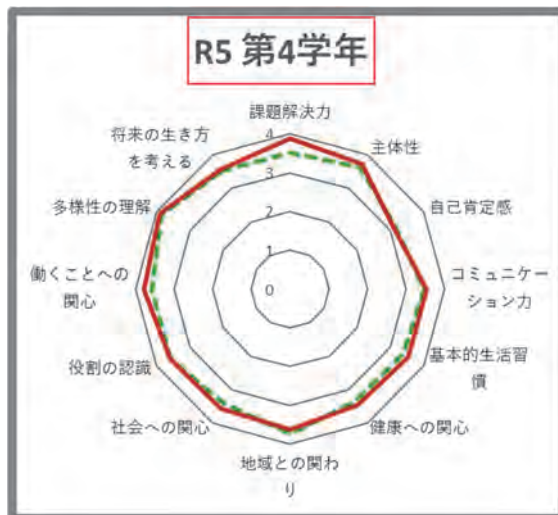
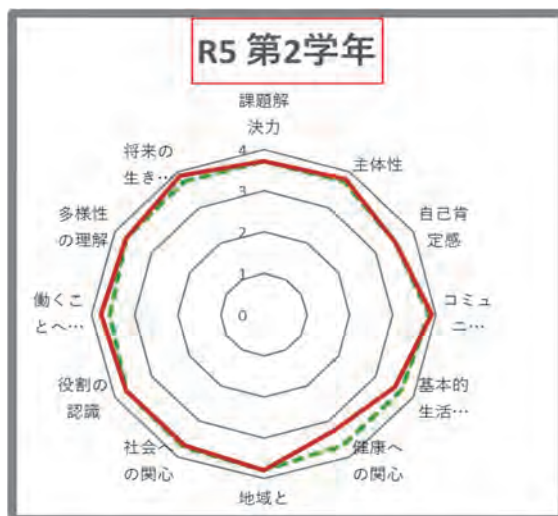
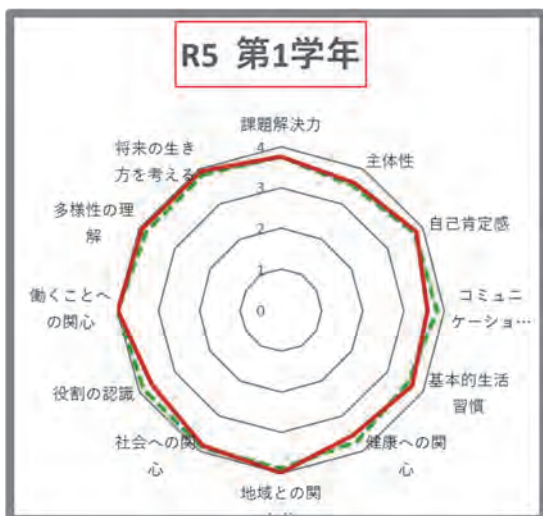
(2) 米内小学校

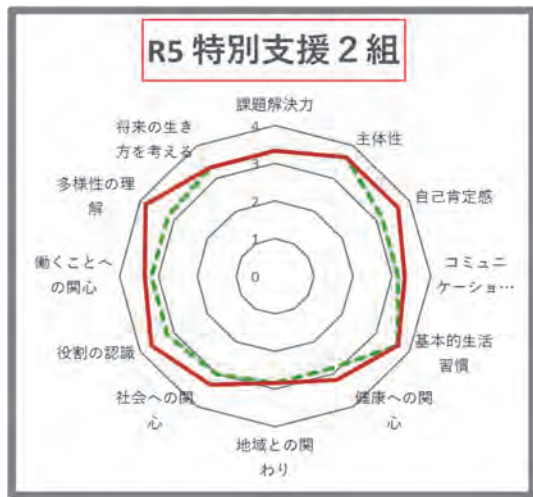
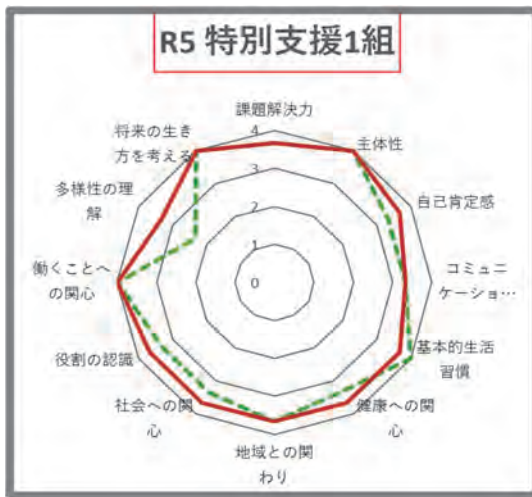
R5 米内小学校キャリア教育アンケート推移〈学年別〉

1学期（6月）



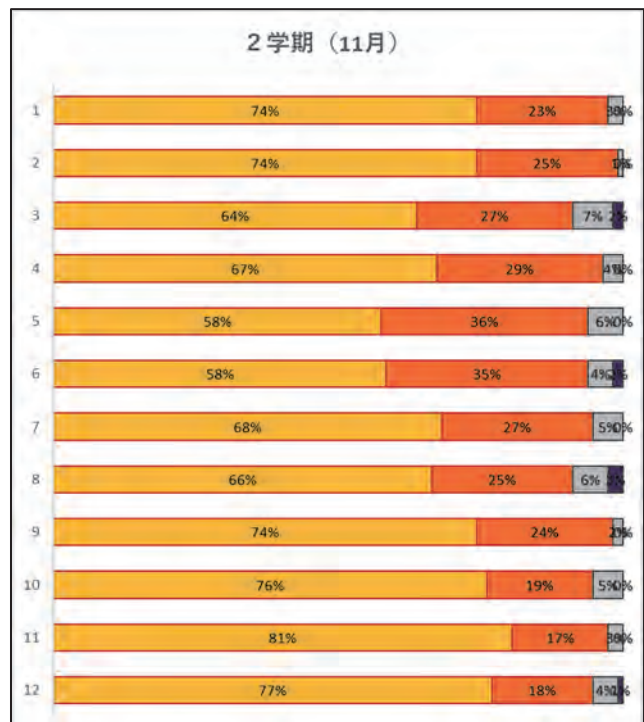
2学期（11月）





R5 米内小学校キャリア教育アンケート推移〈全校〉

■◎ ○○ △△ ××



1 課題解決力 2 主体性 3 自己肯定感 4 コミュニケーション 5 基本的生活習慣 6 健康への関心
7 地域との関わり 8 社会への関心 9 役割の認識 10 働くことへの関心 11 多様性の理解 12 将来の生き方

低学年では、「自己肯定感」で△から○や◎に変容している児童がおり、学習や行事等での達成感によるものと思われる。

中学年では、「課題解決力」での伸びが見られる。総合的な学習の時間に、課題に向かって試行錯誤を重ねながら取り組んだことがプラスとなっていると考えられる。

高学年では、「主体性」や「役割の認識」で肯定的な回答が増えている。委員会や縦割り

班等の活動の中で、自分で考え判断したり、責任を果たそうと努力したりする姿が見られ、成長を実感している。

特別支援学級では、「自己肯定感」や「多様性の理解」での伸びが見られる。様々な体験活動を展開する中で、視野の広がりが見られ、それが友達や自分自身の良さに気付くきっかけになっていると考えられる。

5 それぞれの校種による成果

(1) 米内中学校

ア 職場体験学習の再開・実施

4年ぶりに今年度、2年生において職場体験学習が復活した。職場体験学習を有意義なキャリア教育の機会とするために、教科学習や日常生活と関連付け、将来の生き方の接続を意識した事前・事後指導の充実を図った。

キャリア教育の年間指導計画に再び位置付け、職場体験学習の活動を重視している。

事後の生徒のアンケートでは、2年生生徒全員が、自分の将来の職業を考える上で有益だったと答えている。

次年度においても継続して取り組んでいきたい。

イ 「学びに向かう修正力・調整力」の向上

生徒一人ひとりの学びを補償し、子どもたちの学力の質を高めていくという授業実践がなされ、知識・技能、思考力・判断力・表現力もさることながら、学ぶ意欲が大いに高まっていると考える。

以下は、令和5年度の県学調の質問紙の結果である。

(※ 数字は肯定的な回答)

	米内中	県
授業中、課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいると思いますか	85%	80%
学級には、授業中の先生からの質問や、教科書の問題		

の答えなどについて間違っても認め合える雰囲気がありますか	93%	88%
先生は、授業やテストで分からなかったところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれますか	93%	90%
テストで間違えた問題について、できるようになるまでやり直していますか。	79%	69%
あなたは授業で分からなかったところや、理解していないところについて、自分で調べたり、先生や友達に聞いたりして、解決していますか。	100%	83%
	100%	83%

このことは、「自分で課題を見付け、自ら学び、主体的に判断し、行動し、他から学びつつ修正し、調整しながらよりよく問題を解決する資質や能力＝学びに向かう修正力・調整力」の向上のために、教師と生徒が共に粘り強く取り組み、互いの信頼関係を構築しながら、個性を生かす教育の中で育んできた証であると考えられる。

新入生学調⇒県学調⇒全国学調の正答率の経年変化を見ると、

	国語	数学
R3 新入生学調 (県正答率)	39.2% (46.1%)	46.1% (55.2)
R4 県学調 (県正答率)	62.0% (65.9%)	41.1% (45.2%)

R5 全国学調 (県正答率)	64.0% (69.0%)	44.0% (46.0%)
-------------------	-------------------------	-------------------------

(令和3年度入学生 現3年生)

	国語	数学
R4 新入生学調 (県正答率)	57.1% (47.7%)	51.1% (49.5)
R5 県学調 (県正答率)	62.9% (57.4%)	57.4% (44.6%)

(令和4年度入学生 現2年生)

2年生、3年生ともに正答率は向上しており、学調の結果から見ても、「学びに向かう修正力・調整力」が向上していることがわかる。

(2) 米内小学校

- ・年間指導計画を作成する中で、年間の学年における活動がどのような資質・能力の形成を図ろうとするものが明確となり、系統的な指導を意識して行えるようになった。
- ・「個の指導」を位置付けたことによって、児童の見取りや働きかけがより意識化され、児童の意識変容へとつながった。
- ・家庭や地域との連携をキャリア教育の視点から見直すことによって、より効果的な活動を生み出すことができた。

Ⅷ 研究の課題

1 キャリア教育における小中連携の方向性について

小学校におけるキャリア発達は、**基盤形成の時期**であり、求められるものは、

- ・自己及び他者への積極的関心の形成発展

- ・身のまわりの仕事や環境への関心・意欲の向上
 - ・夢や希望、憧れる自己のイメージの獲得
 - ・勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の形成
- である。

一方、中学生におけるキャリア発達は**暫定的選択の時期**であり、求められるものは、

- ・肯定的自己理解と自己有用感の獲得
 - ・興味・関心等に基づく勤労観・職業観の形成
 - ・進路計画の立案と暫定的選択
 - ・生き方や進路に関する現実的探索
- である。

そのことを踏まえて、米内小学校・米内中学校、それぞれの児童生徒の実態から、現状の課題とその解決のための方策を考えていくと、取り組む内容を小中で揃えて共通に実践することの難しさを感じる。今後も小中9年間のキャリア発達を小中で共通認識し、それぞれの発達段階における課題の改善に取り組んでいく必要がある。

2 小規模校ゆえの検証の難しさ

米内小学校・米内中学校ともに、各学年1学級であり、1学級10数人から20数人の構成の小規模校である。

それゆえ、各学年のキャラクターも学年ごとに大きく異なり、キャリアアンケート等で検証する際、一人ひとりの回答がその結果を大きく左右する。

個に応じて、きめ細やかな指導ができるという大きな利点はあるものの、本研究が実際に米内中学校区の児童生徒のキ

キャリアの発達に大きく貢献したのかということについては、確かなことは言えない。

引き続き、教育・実践を重ねていきたい。

3 それぞれの校種による課題

(1) 米内中学校

— 粘り強く取り組む力 —

米内中学生の長期休業中の課題提出や、定期テスト前の家庭学習強化週間の取組状況を見ると、学年を問わずに学習に粘り強く取り組めない生徒が多い。中学1年生の今年度の夏休み明けの課題提出率は40%に満たず、放課後等に担任が指導しながら最後までやり遂げさせた。

このような実態は、学力調査の質問紙やキャリアアンケートの結果からもはっきりと読み取れる。

デジタルネイティブであるいわゆるZ世代の生徒たちに話を聞くと、家庭での学習中には常にスマホやタブレットを傍らに置き、それをを用いて学習することも多いと言う。そして、すぐに学習から離れさまざまなコンテンツを視聴したり、SNSでのやりとりが始まることが多いのが悩みであるともいう。

学習意欲はあるものの、スマホやタブレット等を断ち切ることができず、苦しんでいる生徒や、「学習に集中できないこと」一時的には苦しみつつもすぐに忘れ利他的に行動している生徒が多いのではないかと推察する。

そのような環境の中、キャリア発達の中でも重要な資質・能力である「粘り強さ」とか「ものごとを一つ一つき

ちんと処理していく力」を、小中連携して学校教育の中でどう育ていけばよいか、また家庭との協力をどう図ればいいのかを考え、今後も継続して丁寧に取り組んでいきたい。

そのうえで、以下の3点をあげておきたい。

- ・社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度を育成すること
- ・キャリアを積み上げていく上で必要な知識などを教科を通して理解させること
- ・卒業生・地域の職業人などのインタビューや対話、就業体験活動などの機会を十分に提供し、進路の研究、自己適性の理解、将来設計の具体化に役立たせること

(2) 米内小学校

- ・「キャリア教育の視点」を意識した授業の在り方については、今後も継続して検討を重ねていく必要がある。
- ・「個の指導」で、成果が見られた児童でも、不安定な要素はまだ見られる。「長所も短所も含めて丸ごと自分肯定する」といった、より安定した「自己肯定感」を抱けるような働きかけの手立てを探っていくことが必要である。
- ・年間を通した計画の中に、家庭や地域との連携を計画的に位置付けていく等、さらに活動の工夫が必要である。

Ⅸ おわりに

国立教育政策研究所の「キャリア教育に関する総合的研究 第二次報告書」(国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター 令和3年10月)によると、

小学校では、

- ・全体計画・年間指導計画の作成は、学校レベルのカリキュラム・マネジメントに向けた「はじめの一步」である。
- ・学校レベルのカリキュラム・マネジメントを発展させることは、担任がキャリア教育目標を意識することにつながり、学年・学級レベルのカリキュラム・マネジメントを効果的に機能させる。
- ・学校レベルでのカリキュラム・マネジメントが機能している学校では、担任は児童のキャリア発達を実感している。
- ・担任が計画に基づいてキャリア教育を実施することは、児童の学習意欲や基礎的・汎用的能力の向上に寄与する。

中学校では、

- ・全体計画では、キャリア教育の計画・実践・評価・改善のサイクルを計画に位置付けることで、キャリア教育を通したカリキュラム・マネジメントの充実につなげることができる。
- ・年間指導計画では、各教科におけるキャリア教育を具体的に示し、組織的な取組とすることが必要である。
- ・カリキュラム・マネジメントに取り組んでいる学校では、学級担任が生徒の「基礎的・汎用的能力」を高めることを意識した指導を活発に行っており、生徒のキャリア発達を促している。
- ・自校のキャリア教育目標を説明できる学級担任は1割にも満たず、カリキュラム・マ

ネジメントの円滑実施に向けての端緒として、まずは校内研修での共有が必要である。

と報告している。

米内小学校、米内中学校とも今回の指定研究において、「はじめの一步」を踏み出したにすぎないが、担任がキャリア教育に求められる資質・能力を意識し、児童生徒に指導を行い、「大きな一步」踏み出したと言えよう。

子どもたちのかけがえのないの未来のために、教職員が「明るい未来」を希求し、児童生徒がより良い選択できるよう指導していきたい。そして、子供たちが将来立派な職業人として自己実現できるよう、今後とも校内研修を積み、教育実践をしていきたい。

キャリア教育全体計画

盛岡市立米内小学校

日本国憲法
教育基本法・学校教育法・学習指導要領
中学校キャリア教育の手引き
若手県教育委員会指導方針
盛岡市教育委員会基本方針

学校教育目標		
かしこく（知）	やさしく（徳）	たくましく（体）
知識・技能 ・ 知識・技能を身に付け生かす	生命を尊重する	健全で安全な暮らしをおくる
思考・判断・表現 ・ 筋道を立てて考え表現する	自律的に判断し行動する	防災や復興のために行動する
学びの力 ・ 協同的に学び価値を深める	他と協調し生活の充実を図る	体づくりに継続して取り組む
人間性 ・ 学びを振り返り振り返る	美しいものや気高いものに感動する	粘り強く最後までやり抜く

児童の実態
明るく素直で、自然に親しみをもっている。
コミュニケーションを苦手としている児童が多い。
保護者・地域の願い
思いやりがあり、心身ともに健康な児童

目指す学校像
・ 生き生きと学び合う活力ある学校
・ あいさつを交わし合う明るい学校
・ 信頼と友情に満ちた心通い合う学校
・ 家庭や地域と共に子どもを育てる学校

目指す児童像
・ 進んで学び よく考える子ども
・ 思いやりがあり 助け合う子ども
・ 心も体も健康で たくましく子ども
・ 目標をもち最後まで やりぬく子ども

目指す教師像
・ 児童一人ひとりを大切にする教師
・ 授業を大切にしている教師
・ 児童・保護者・地域から信頼される教師
・ 自ら、学び続ける教師

本年度の重点
・ 豊かな心を育む教育の推進
・ 基礎学力の定着と深い学びを視点とする授業改善
・ 健やかな体を育む教育の推進
・ キャリア教育の推進・充実

キャリア教育の全体目標（キャリア教育で目指す児童像）

自分に気づき未来を築く児童・生徒の育成

－ 9年間を見通したキャリア教育の実践を通して －

自分のよさや個性を知り、目標に向かって自分を伸ばそうとする児童

いわてのキャリア教育で育成すべき能力

総合生活力

生徒が将来の社会人・職業人として自立して生きるための能力

人生設計力

生徒が主体的に人生計画を立て、進路を選択し、決定できる能力

	総合生活力			人生設計力		
	確かな学力	豊かな心	健やかな体	社会を把握する力	勤労観・職業観	将来設計力
低学年	【課題解決力】 自分が決めたためあてに向かって活動することができる。	【自己肯定感】 様々な活動の中で、自分のよさに気づくことができる。	【基本的な生活習慣】 健康や安全に気をつけ、規則正しい生活を送ることができる。	【地域との関わり】 地域の方に支えられていることに気づくことができる。	【役割の認識】 係や当番の活動に取り組み、大切さが分かる。	【多様性の理解】 友達とのよさや個性を知り、尊重し合うことができる。
小学 中学 年	【課題解決力】 見通しをもち、自分の力で課題を解決しようと努力できる。	【自己肯定感】 自分の長所や短所に気づき、自分らしさを発揮しながら活動することができる。	【基本的な生活習慣】 健康や安全に気をつけ、節度ある生活を送ることができる。	【地域との関わり】 地域の特性やよさを知ることができる。	【役割の認識】 様々な活動に取り組み中で、働くことの楽しさを実感できる。	【多様性の理解】 自分のやりたいことや良いと思うことに進んで取り組むことができる。
小学 高学 年	【課題解決力】 課題解決に向け、試行錯誤しながら根気強く取り組むことができる。	【自己肯定感】 自己のよさや個性を知り、自らの生き方を大切にしようとする。自己のよさを認め、自信を持って活動することができる。	【基本的な生活習慣】 自分自身の生活を直視し、より良いものへ改善することができる。	【地域との関わり】 地域の中で自分のできることを考え、実践することができる。	【役割の認識】 集団生活における様々な役割を理解したり、自己の責任を果たすことができる。	【多様性の理解】 自分のやりたいことや良いと思うことに進んで取り組むことができる。
一 学 年	・ 授業で、課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組むことができる。 ・ 体験から感じ取ったことを表現することができる。 ・ 基礎となる力を身に付けるために、家庭学習に粘り強く取り組むことができる。	・ 自分にはよいところがあると思える。 ・ クラスメイトや家族など他者のよさや気持ちを確認することができる。		・ 家庭を大切にしながら、地域や身の回りの出来事に関心を持つことができる。 ・ 地域社会とかかわりを持ち、ボランティア活動を通して地域に貢献しようとする態度を向上させることができる。	・ さまざまな職業について関心をもち、働くことについて考えることができる。	・ 将来の夢や希望をもつことができる。 ・ 将来の自分について考え、自分のよさを生かそうとする。
中 学 年	・ 授業で、課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組むことができる。 ・ 事実と意見を区別し、自分の考えを説明することができる。 ・ 基礎となる力を身に付けるために、家庭学習に粘り強く取り組むことができる。	・ 自分にはよいところがあると思える。 ・ クラスメイトや家族など他者のよさや気持ちを尊重することができる。	・ 基本的な生活習慣を身に付け健康的で安全な生活を送ることができる。 ・ 健康で安全な生活のために、意識を高く持って自分の身体・精神を鍛えることができる。	・ 社会で起きている事象について関心を持ち、自分の生活に生かすことができる。 ・ 地域社会の課題について、自らの視野を広げ積極的にボランティア活動に取り組むことができる。	・ さまざまな職業について調査し、働くことの意義や職業についての理解を深めることができる。 ・ 卒業後の進路について具体的な情報収集し、進路選択に向けて計画や方法を考えることができる。	・ 将来の夢や希望をもつことができる。 ・ 卒業後の進路について具体的な情報収集し、進路選択に向けて計画や方法を考えることができる。
三 学 年	・ 授業で、課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組むことができる。 ・ 情報を分析・評価し、自分の考えを表現することができる。 ・ 粘り強く生涯にわたって学び続けようとする姿勢をもつことができる。	・ 自分にはよいところがあると思える。 ・ 他者のよさや気持ちを尊重し、協力しながら行動することができる。		・ 広い視野に立って自分との関わりから物事を捉えることができる。 ・ 社会の現状を把握し、積極的に社会に貢献しようとする意識をもつことができる。	・ 社会の一員としての自覚を持ち、働くことの意義を考え、自分の進路選択を有意義なものとする。自己の責任を果たすことができる。	・ 将来の夢や希望をもつことができる。 ・ 自分の生き方についてより深く考え、卒業後の具体的な進路計画を立て、努力することができる。

各教科
・ 確かな学力形成を通じた達成感、自己有用感の育成
・ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

道徳
・ 道徳的価値の理解とともに、自己理解を深める。
・ 道徳的価値観を基盤として自己の生き方についての考えを深める。

【重点目標】		
・ キャリア教育の視点を取り入れた授業づくり ～特別活動、生活科、総合的な学習の時間を中心として～		
低学年	中学年	高学年
・ 自分が決めたためあてに向かって活動することができる。	・ 見通しをもち、自分の力で課題を解決しようと努力できる。	・ 課題解決に向け、試行錯誤しながら根気強く取り組むことができる。
・ 様々な活動の中で、自分のよさに気づくことができる。	・ 自分の長所や短所に気づき、自分らしさを発揮しながら活動することができる。	・ 自己のよさや個性を知り、自らの生き方を大切にしようとする。
・ 相手の話を聞くことができる。 自分の考えを伝えることができる。	・ 相手の意図を理解し、自分の思いや考えを表現することができる。	・ 他者の個性や思いを受け止めながら考えを交流し合い、適切な人間関係を築くことができる。
・ 健康や安全に気をつけ、規則正しい生活を送ることができる。	・ 健康や安全に気をつけ、節度ある生活を送ることができる。	・ 自分自身の生活を見直し、より良いものへ改善することができる。

自己肯定感・自己有用感の育成

総合的な学習の時間
自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力の育成。

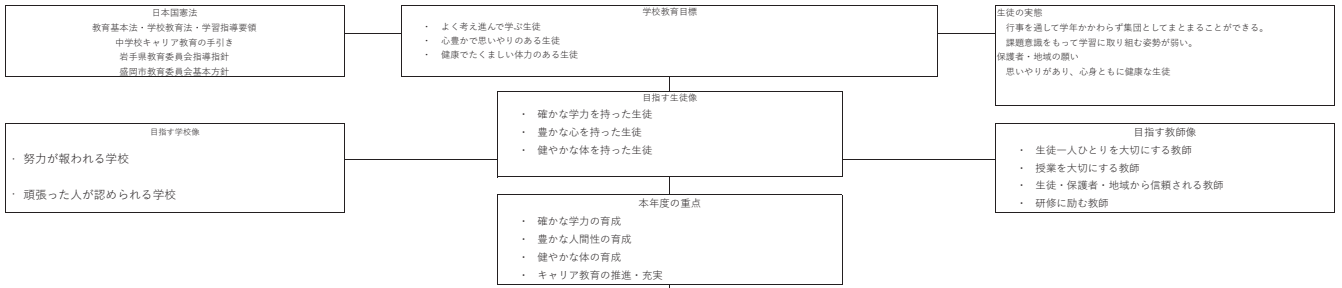
特別活動
心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度の育成。

学校生活全般

・ 縦割り班活動 ・ 縦割り班清掃 ・ 係活動 ・ 当番活動 ・ クラブ活動 ・ ボランティア活動 ・ キャリアパスポートの活用
運動会の取り組み ・ マラソン大会の取り組み ・ 学習発表会の取り組み

キャリア教育全体計画

盛岡市立米内中学校



キャリア教育の全体目標（キャリア教育で目指す生徒像）					
自分に気づき未来を築く児童・生徒の育成					
— 9年間を見通したキャリア教育の実践を通して —					
自分のよさを伸ばし、「なりたい自分」の実現に向けてチャレンジする生徒					
いわゆるキャリア教育で育成すべき能力					
総合生活力 生徒が将来の社会人・職業人として自立して生きるための能力			人生設計力 生徒が主体的に人生計画を立て、進路を選択し、決定できる能力		
確かな学力	豊かな心	健やかな体	社会を把握する力	動労観・職業観	将来設計力
<ul style="list-style-type: none"> 自分が決めためあてに向かって活動することができる。 自分のことは自分でやろうとすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な活動の中で、自分のよさに気づくことができる。 相手の話を聞くことができる。 自分の考えを伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康や安全に気をつけ、規則正しい生活をするすることができる。 進んで運動をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の方に支えられていることに気づくことができる。 自分からあいさつができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 係や当番の活動に取り組み、大切さがわかる。 身近で働く人々に関心を持つことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 友だちのよいところや自分に気づくことができる。 様々な活動に取り組み、自分の好きなことやできることを増やすことができる。
<ul style="list-style-type: none"> 見通しをもち、自分の力で課題を解決しようと努力できる。 自分でやろうと決めたことを最後までやり通そうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の長所や短所に気づき、自分らしさを発揮しながら活動することができる。 相手の意図を理解し、自分の思いや考えを表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康や安全に気をつけ、節度ある生活をするすることができる。 健康な身体づくりのため、目標をもって生活することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の特徴やよさを知ることができる。 盛岡市や若手県について学ぶ中で、郷土への関心をもつことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な活動に取り組み中で、働くことの楽しさを実感できる。 様々な仕事があることを知り、仕事について興味・関心をもつことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 友だちのよさや自分の違いに気づくことができる。 自分のやりたいことや良いと思うことに進んで取り組むことができる。
<ul style="list-style-type: none"> 課題解決に向け、試行錯誤しながら根気強く取り組むことができる。 主体的に意思を決定したり、目標に向かって努力したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己のよさや個性を知り、自らの生き方を大切にしようと思う。 他者の個性や思いを受け止めながら、考えを交流し合い、適切な人間関係を築くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分自身の生活を見直し、より良いものへ改善することができる。 健康な身体づくりのため、目標をもち、工夫しながら生活することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の中で自分のできることを考え、実践することができる。 読書を通じて、身近な社会を知ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 集団生活における様々な役割を理解したり、自己の責任を果たすことができる。 学んだり体験したりしたこと暮らしや職業との関連性について学ぶことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 互いの違いを認め合い、尊重し合うことができる。 夢や目標をもって生き方を考え、今やるべきことに向けて努力することができる。
<ul style="list-style-type: none"> 授業で、課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組むことができる。 体験から感じとったことを表現することができる。 基礎となる力を身に付けるために、家庭学習に粘り強く取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分にはよいところがあると思える。 クラスメイトや家族など他者のよさや気持ちを確認することができる。 粘り強くものごとに取り組む気持ちを持つことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣を身につけて健康で安全な生活を送ることができる。 健康で安全な生活のために、意識を高く持って自分の身体・精神を鍛えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭を大切にしながら、地域や身の回りの出来事に関心を持つことができる。 地域社会とかわかり、ボランティア活動を通して地域に貢献しようとする態度を向上させることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな職業について関心を持ち、働くことについて考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 将来の夢や希望を持つことができる。 将来の自分について考え、自分の良さを生かそうとすることができる。
<ul style="list-style-type: none"> 授業で、課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組むことができる。 事実と意見を区別し、自分の考えを説明することができる。 基礎となる力を身に付けるために、家庭学習に粘り強く取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分にはよいところがあると思える。 クラスメイトや家族など他者のよさや気持ちを尊重することができる。 粘り強くものごとに取り組む気持ちを持つことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣を身につけて健康で安全な生活を送ることができる。 健康で安全な生活のために、意識を高く持って自分の身体・精神を鍛えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会で起きている事象について関心を持ち、自分の生活に生かすことができる。 地域社会の課題について、自らの視野を広げ積極的にボランティア活動に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな職業について調査し、働くことの意義や職業についての理解を深めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 将来の夢や希望を持つことができる。 卒業後の進路について具体的な情報収集し、進路選択に向けて計画や方法を考えることができる。
<ul style="list-style-type: none"> 授業で、課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組むことができる。 情報を分析・評価し、自分の考えを表現することができる。 粘り強く生涯にわたって学び続けようとする姿勢を持つことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分にはよいところがあると思える。 他者のよさや気持ちを尊重し、協力しながら行動することができる。 自分のやるべきことに、粘り強くたくましく強い意志を持つことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣を身につけて健康で安全な生活を送ることができる。 健康で安全な生活のために、意識を高く持って自分の身体・精神を鍛えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 広い視野に立って自分とのかかわりから物事を捉えることができる。 社会の現状を把握し、積極的に社会に貢献しようとする意識を持つことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会の一員としての自覚を持ち、働くことの意義を考え、自分の進路選択を有意義なものとするすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 将来の夢や希望を持つことができる。 自分の生き方についてより深く考え、卒業後の具体的な進路計画を立て、努力することができる。

時を守り、場を清め、礼を正す。

各教科	【重点目標】			総合的な学習の時間
	第一学年	第二学年	第三学年	
<ul style="list-style-type: none"> 主体的、対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 学力向上 課題設定と振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> 実社会・実生活のつながりを実感できる授業づくり【確かな学力の育成】 職業観の育成 基本的な生活習慣の徹底と生き方指導【キャリアガイダンス】 			<ul style="list-style-type: none"> 自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する能力の育成。
<ul style="list-style-type: none"> 道徳 道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の良さや個性がわかる 自己と他者の違いに気づき、尊重しようとする。 集団の一員としての役割を果たそうとする。 将来に対する意欲と夢や希望を抱く。 	<ul style="list-style-type: none"> 職場体験・校外学習を通して、自分を見直すことができる。 自分の言動が、他者に及ぼす影響について理解する。 社会の一員としての自覚が生ずるとともに社会や大人を客観的にとらえる。 将来の夢を達成する上で現実の問題に直面し、模索する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分に合った進路を選択することができる 自己と他者の個性を尊重し、人間関係を円滑に進める。 社会の一員としての義務と責任を理解する。 将来設計を達成するための困難を理解し、それを克服する努力に向かう。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別活動 個性の伸長を図り集団としてのよりよい生活や人間関係を築こうとする自主性、実践的な態度の育成
自己肯定感・自己有用感の育成				

学校生活全般

- 朝の読書 清掃活動 係活動 部活動 ボランティア活動 ・キャリアパスポートの活用
- 教育相談週間 ・体育祭の取り組み ・翔燕祭の取り組み